



こども記者の取材教室レポート

～「少年倶楽部」を読んで～

ていねいな絵。進化し続ける雑誌に注目

小山あさひ記者



私が読んだのは大正3(1914)年10月号でした。私は最初に、「表紙がお札の絵みたい。えらいていねいにかいてるな」と思いました。また、連さい小説のページをめくると、表紙に似たような、ていねいな絵が何ページも何ページもありました。現在のこども向けの雑誌とその本をよく見比べてみると、口のかき方など、えらいちがっている部分が多くあり、絵について興味を持ちました。

記者会見の時は、たくさんの方が質問し、「ライオンなど当時はめずらしい動物を表紙にして、読者の気をひく」「読者が親しみをもちやすくするために、あえてこどもをモデルにする」などのことが分かりました。昔は昔なりの工夫がこらされているんだなと思いました。雑誌を楽しくしている読者のために、工夫の上にさらにひと工夫をくり返して、雑誌は進化してきたんだと思います。これからも進化していく雑誌の工夫を見ていきたいと思います。



明治30(1897)年「少年世界」



昭和6(1931)年4月号



昭和7(1932)年7月号

戦争に負けたことで、横書きに変化

滝澤みさき記者



私は昭和7(1932)年7月号を開いてみました。一番最初に気が付いたのは、ざつしの名前の横書きが今と反対だったことです。今は左から右へ書いていますが、当時のざつしは右から左書いてありまして、今の書き方になれていないので、反対から書いてあると読みづらいし、パツと見ただけでは何と書いてあるか分かりませんでした。なぜ、今と昔では横書きの書き方がちがうのかなと

思い、長野県立歴史館の原明芳さんに聞いてみました。原さんは「英語が左から右へ書くから、『日本も横書きは左から右へ書くことにしよう』となったんだ」と教えてくれました。日本は戦争でアメリカに負け、その後これではだめだ」と、たくさんの方でアメリカのまねをしました。戦争の時代をはさんで、いろいろなことが変化したんだなと、ざつしを通じて知ることができました。

インタビュー

当時、「少年倶楽部」を読んでいた西沢直人さんのお話



小学生のころ、少年向け雑誌を読んでいた、千曲市老人クラブ連合会の会長・西沢直人さんにお話を聞きました。大正15(1926)年生まれ83歳です。

「少年倶楽部」はよく読んでいたのですか？

毎月、楽しみだったよ。でも、値段が高かったから、友だちとの「回し読み」。「〇〇君が買ってもらった」と聞くと、貸してもらおうのを待っていた。自分で買ってもらうも、待っている友だちがたくさんいるから、1カ月は戻ってこなかったよ。

当時はたしか、1、2銭であめ玉が2～3個買えた。少年倶楽部は50銭、60銭だから大金だったんだよ。



「少年倶楽部」は、どういものが楽しかったのですか？

まんが「のらくろ」。ほかのものは読まなくても、「のらくろ」だけは読んでいたよ。まんがは好きだったね。

どきどきしながら読んでいたのは、戦争やスパイ、冒険などがあわさったような物語。肉弾の三勇士、「敵中横断三百里」や「大東の鉄人」、広瀬中佐の物語などがあつたね。ジャングルを冒険する物語や、正義の味方のさむらいが活躍する物語もあつたよ。

付録がたくさんあって楽しみだった。「のらくろ」の本が付録だったこともあつた。

一そのころ、戦争についてはどう思っていましたか？

物語にも戦争のことが入っていたので、戦争はいけなしいとは思っていませんでした。雑誌だけでなく、学校でも「国のために働こう」ということを聞いたりしていたからね。

interview

写真でニュースに挑戦しよう!

毎週土曜日の「こども新聞」のページにのせている「写真でニュース」は、こども記者がとった写真とみじかい文章でニュースを紹介するコーナーです。みんなも挑戦してみよう!

①「おもしろい」「きれいだな」「びっくりした」などと思ったものを、カメラで写真にとろう!

【撮影のポイント】

◎いろいろな角度からとろう!

◎大きさがわかる工夫をしてみよう!

(人を入れたり、消しゴムやえん筆など、みんなが知っているものを、近くに置いたりして)

②写真にとったものについて、人に聞いたり、調べたりして取材しよう!

③写真と400字以内の記事を信毎に送ろう!

わからないことや困ったことなどがあつたら「こども記者クラブ」に気軽に相談してね!

【応募方法】郵便番号、住所、電話番号、名前(よみがなも)、学年を書いて、信濃毎日新聞地域活動部「写真でニュース」あてに、ハガキ(〒380-8546 長野市南東町657)、ファクス(026-236-3193)で送ってね。※写真の画像は、メール(e-chiiki@shinmai.co.jp)でも受け付けています【お問い合わせ】こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) TEL026-236-3110

【こども取材教室in長野県立歴史館に参加してくれたこども記者たち】(由千音編)

- | | | | | | |
|---------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 赤井志帆記者 | 赤井唯真記者 | 池田裕紀記者 | 井上裕記者 | 内藤由菜記者 | 岡島慶侍記者 |
| 岡島有希記者 | 萩原時歩記者 | 小田切麗親記者 | 加藤大貴記者 | 桑原健輔記者 | 小泉祥記者 |
| 小山あさひ記者 | 佐々木稔記者 | 島本蓮也記者 | 葉山幸奈記者 | 高野ひかる記者 | 滝澤みさき記者 |
| 滝澤悠真記者 | 竹村愛美記者 | 田中ひかる記者 | 塚田彩音記者 | 塚田優希記者 | 中村文音記者 |
| 畠山大成記者 | 丸山未来記者 | 溝口開人記者 | 溝口桃子記者 | 柳沢聖奈記者 | 輪瀬勇哉記者 |

ありがとうーの



【出稿×7】

しゅつこう・めも

取材した内容について原稿を書く前に、ニュースのポイントや写真の絵柄などをデスクに伝える短い文章。各記者からの出稿×7を基に、どのくらい大きさを紙面にのせるか、あらかじめ判断する。

信毎の新聞語 第5版